

「道路・交通」
- 長期未整備都市計画道路をどう考えるか -

最初に、本日の講演テーマである「道路・交通計画」の主題に入る前に、ひとつのキーワードとして、

言葉の切断 = 言葉を切り離して考える

という事から触れてみたいと思います。

具体的には、例えば「ゆとり教育」であれば “ゆとり” と “教育” に分けられます。

1. 都市計画

都市計画は、“都市” と “計画” に分けることができます。

では、都市とは？ 計画とは？

都市を形成する最大の要因は、人であり人間である。

都市を計画する最大の目的は、人口の増加である。インフラとか箱物は手段である。

- ・国が滅びるのは人口減少と学力低下
- ・国が滅びるのは悪くではなく国（市）民の愚によるも

人口は、言い換えれば、



これら上記項目の発想の原点は、“経済”

経済の語源は （経）国（済）民 民を助けて国を営む

そこで、私感ではあるが、経済が成立・充実している上での教育であり、文化であり、環境であり、社会保障等であると思う。

また、それらが充実し、人々が日常生活を営み、活力のある社会・経済活動を行うことができるからこそ都市と呼べると考える。

市の最大の財産は市民である

2. 「道路・交通」

今日の講演テーマである「道路・交通」を考える場合に大切なこととして、先に述べたようにこの二者を切り離して考えてみたい。

そうすると、次のように考えることができる。

道路とは？	施設
交通とは？	現象

すなわち、

道路とは、

道路とは、役所が住民に提供できる最も公共・公益性の高い施設
(一般的には水や空気と同じ様にあって当然と考えがち)

都市を形成するための基盤となる施設の中で唯一、地下、地上、空地が利用できる施設。

経済活動を発展・維持させる為の交通手段の最も有効な施設

天災、人災に対し市民が移動する場合、又、救助活動に対し一番利用し易い施設であり、時によって防災の役目も果たす。

都市の景観・美観を決める大きな要素の1つ。

交通とは、

「交通」とは、辞書的には「人や乗り物が一定の道筋を通過して行き来すること」と表現されているが、学問的には「ある広がりをもった地域社会の交通空間(原則として不特定多数が共有する空間)内で人と物が人間の意志によって移動する様」をいう。

次に、交通の3要素は、

人、物という移動の主体

鉄道車両、自動車、船、飛行機などの交通具

鉄道路線、道路、海面、空間などの交通路

により構成される。

そして「交通具」と「交通路」の組み合わせにより「交通手段」が成立する。

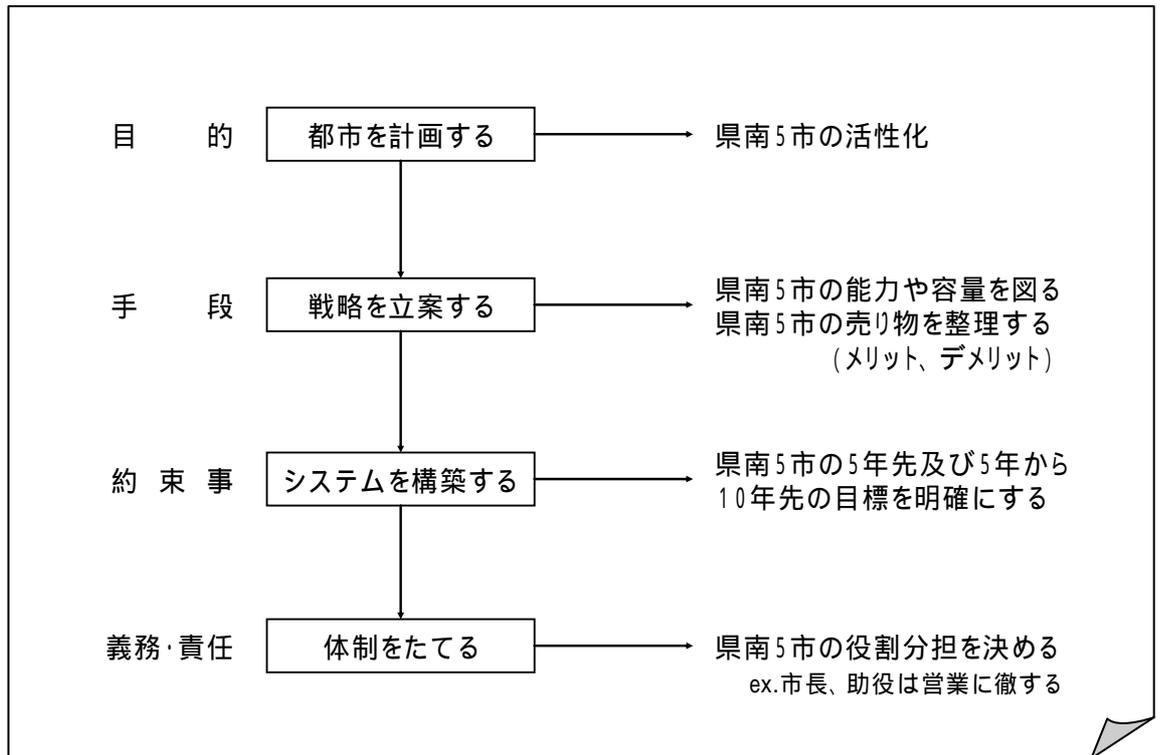
3. 県南5市の活性化

冒頭で述べた、都市としての活力ある社会・経済活動を図るためには、行政の株式会社化(という捉え方)が必要ではないだろうか？

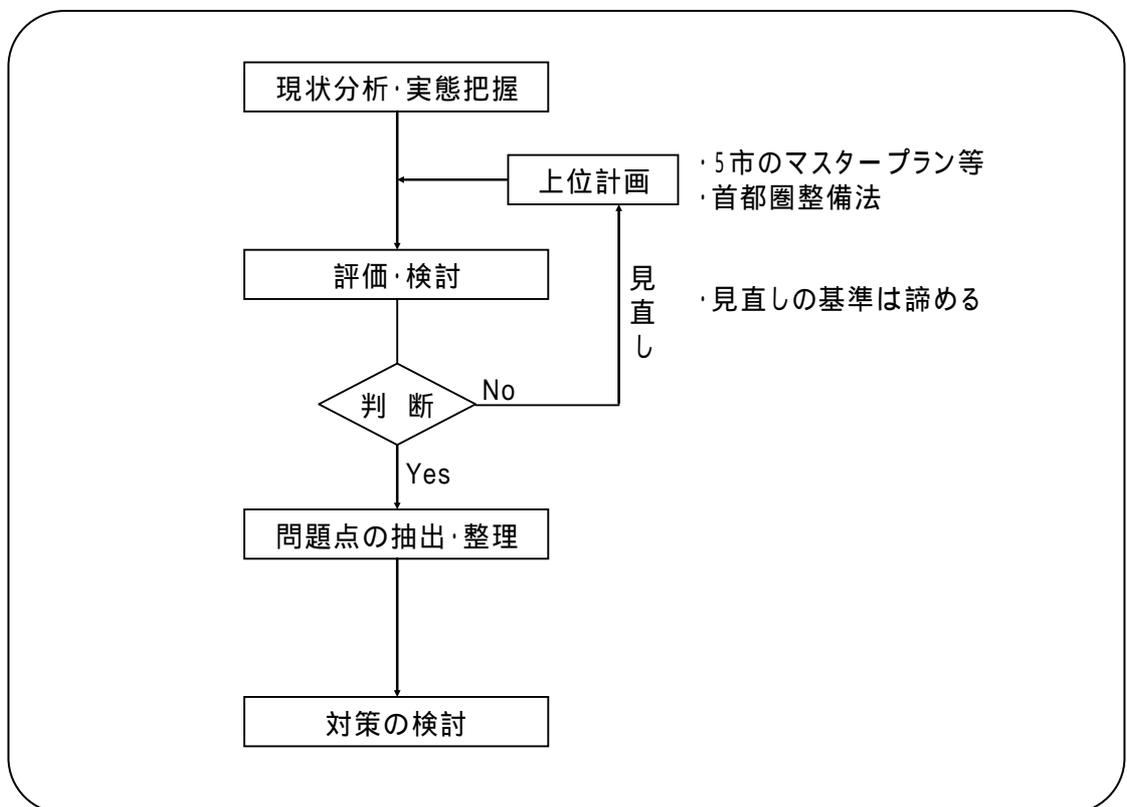
県南5市の株式会社化とは？

これは、私感ですが、税金という予算で行政(サービス)を行っている役所の皆様と、利益で運営している私ども民間との大きな差は、仕事を“目的”としているか“手段”としているかだと思っている。

私が都市を計画する場合の手順は、以下に示す流れになります。



上記、に対し以下のフローを示す。



4. 役所職員の心構え（公僕）

公務員とは、「国または地方公共団体の職務を担当し、国民全体に奉仕する者」であり、いわゆる公衆に奉仕する者。“公僕”である。

役所の職員は、利害の発生する不特定多数の人々を相手に、サービスを提供しなければならない。その際、“公僕”としての心構えが必要になると思う。

（1）サービスとは

サービスの考え方として、以下のような捉え方がある。

税金を基に行うサービス	公的サービス（役人・先生）
料金を基に行うサービス	私的サービス（医者・ホステス）

サービスの基本は“今”何ができるかであり、それが重要である。

<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと待ってください ・過去に前例がない ・以前（10年前）に決まったことだから 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから考えます ・時間がかかります ・何々に相談しないと
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

このような台詞は、サービスを求める顧客に対し、決してサービスにならない。

（2）意識

- ・ 多種多様な人達の中で自分自身の向上を図りつつ、業務を遂行するには「手を打てば魚は集まり 鳥は逃げる 女中は茶を汲む猿沢の池」という意識を持つことが重要である。
- ・ 物事はどんな些細な事でも利害が発生するが、最終的には需要と供給のバランスで落ち着くことができる。
- ・ 改革という言葉は立場によって“改善”にもなるし“改悪”にもなる。
- ・ 計画という言葉は時によって“夢”と“希望”としか読めなくなるが、“目標”と“手”に取る物”と読めるようにしよう。
- ・ 組織は戦略に従わなければならない。（組織は道具の1つである）

（3）心構え

切る大事さを覚えよう

親切・大切・切実

昔の人達は日常の中で重要な言葉に“切”という語句を使っている。

過去のしがらみにさよならしよう。（昭和29年に計画した道路）

説得力

話す相手が“なるほど”、“そうなんだ”、“そのとおり”と口をついてしまうことが説得力だと考えると、その“コツ”は、わかりやすく、簡単に、なおかつ、常識的に平凡にである。

正確な質問をすれば、正確な答えが返ってくる。

あいまいな質問には、あいまいな答えしか返ってこない。

相手を動かすには

行動を起こすことによって結果“得”ですよ、後が“楽”ですよ。そして得・楽は続けられるから結果継続は“力”なりとなる。

(4) 語尾を大事に、逆の発想

楽しいけど訳がわからない → 訳がわからないけど楽しい
 得をするけど何だか怖い → 何だか怖いけど得をする

(5) 日常会話の言葉の意味を知ろう

・知識 ・常識 ・見識 ・差別 ・区別

(6) チームワークとは

“チームワーク”とは助け合うことでなく、読んで字のごとくチームの中のワークである。

(7) 観光より感好

安芸の宮島よりディズニーランド

(8) 目的と手段

- ・ 1つの目的に対し、多数の手段を持つ
- ・ 手段は、常に組み合わせを考えよう
- ・ あきらめるといふ心構えが必要
- ・ 達成できない目的は、勇気を持って断念しよう

5. 「チームワーク」を活かした都市計画道路の整備

これまで、「市民は市の財産」「チームの中のワークがチームワーク」「手段をもった目的」という話をさせていただいた。

皆様が日ごろ悩まれている「都市計画道路の整備」についても、財産である市民をわれらがチームの一員として、様々な手段を駆使した目的の達成を図ることが重要ではないだろうか？

特に、長期未着手の都市計画道路については、財政的に推し進められない反面、「これまで市民の財産に制約をかけてきた」という問題もある。

「拡大・拡散型都市構造」から「集約型都市構造」への転換（いわゆるコンパクトシティ）が叫ばれる中、特に郊外部での新たな道路整備は、いたずらな市街地の外延化を招く場

合もあると思われる。

しかし、道路の脆弱な既成市街地等では、緊急車両の進入や歩行の安全性確保など適正な道路整備が必要な場所が多々残されているのも確かである。

「都市の骨格形成」、「空間構成」、「生活幹線」など、都市計画道路のもつ役割は様々であるが、真に必要なものは作る、都市計画道路でなくても目的を達せるのに十分なものは代替路線や一般道路事業で対応する、などといった考えを持つことも大事といえる。

地域の現状やニーズを的確に把握し、「選択」と「集中」、「道路の役割の明確化」ということが必要になってくる訳だが、この時に先ほど述べた「チーム・ワーク」が欠かせないものとする。

では、「誰と誰がチーム」で「何が目的」で「何が手段」なのであるだろうか？

市民と公僕は「チーム」である。

5市も相互で「チーム」である。

「国」と「県」と「市」も「チーム」である。

「東京都」と「埼玉県」も「チーム」となるであろう。

「目的」や「手段」についても、このように考えると考えやすくなるのではないだろうか？

6. おわりに

わが社でも、近年、都市計画道路の整備・見直しについて、廃止も含めた検討に関わらせていただく機会が増えた。

場所、場所でかかえる問題は様々で、一定の方法やマニュアルで答えを出せるものではないと実感している今日この頃である。

皆様が「チーム」として「手段」を駆使した「目的」の達成を「ワーク」され、県南5市が「チーム」として、より良いものとなることを願っている。